



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

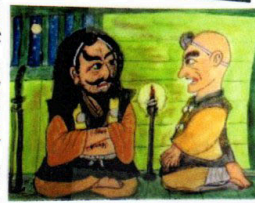
掲示板法話

念仏者は無碍の一道 むげ

困難にも柔軟に乗り越えていく

秋の訪れとともに、親鸞聖人の御恩徳に報謝し、共々に聴聞させて頂く「報恩講」の季節が巡って参りました。今年も聖人ご誕生から850年、浄土真宗の立教開宗から800年の記念の年であり、私どもの寺の「ご絵伝」(余間に奉懸される四幅の絵伝)が大修復されての報恩講です。お参り下さり、きれいに修復されたご絵伝を通じて親鸞聖人の御生涯に触れて頂きたいと思

います。
「ご絵伝には、御誕生からご往生、大谷廟堂に納骨された場面まで90年の御生涯が四幅に分け描かれています。一幅目：ご誕生から出家・得度、法然聖人の門弟になる頃まで。
二幅目：法然聖人の門弟時代、信心の論議など。
三幅目：念仏禁止(承元の法難)により、越後流罪、赦免後関東へ移られる。(山伏・弁円の清度など)
四幅目：箱根靈告、熊野靈告。聖人の往生、大谷廟堂建立。



それは、聖人の曾孫・覚如上人が、聖人の33回忌(永仁二年(1294)に「報恩講式」を作成された翌年、信州康楽寺・浄質の画筆協力を得て、親鸞聖人の伝記絵巻が製作され、本願寺本(上下二巻)や高田本五巻が伝えられています。ご絵伝の中で、唯一つだけ紹介させて頂くのは、聖人35歳の越後流罪の場面(三幅目)です。
29歳の頃、比叡山を降りて、法然聖人の門弟に加わって6年後、念仏禁止令が下され、法然聖人は土佐に、親鸞聖人は越後に流罪。事件の発端となった若い僧侶4名は死罪となる、前代未聞の強烈な弾圧でした。

それは、念仏門の隆盛を妬んだ南都仏教勢力の圧力と、熊野詣で留守中の後鳥羽上皇の女官たちが念仏門の法会に加わったことに激怒した上皇の私怨による裁きですから、聖人も激しい怒りを覚えられたようです。
しかし、聖人は流罪により僧侶の身分をはく奪されたことを契機に「僧にあらず俗にあらず」という立場に立ち、

越後の人々をはじめ学問や修行も叶わぬ庶民大衆に寄り添い、本願念仏の救いを説き広める道に歩みを始められたのです。関東の地で親鸞聖人の教えが盛んになったのを恨んで聖人をつけ狙った山伏・弁円に対して、逃げも隠れもせずに対面した聖人の慈悲深きお人柄に触れて、弁円は弓矢を捨てて明法房と名を改め、門弟になりました。
「山は山川は昔に変わらねど 変わり果てたる我が心かな」という明法房の歌が伝えられています。

「念仏者は無碍の一道なり」(歎異抄7章)。念仏申すものは困難にも柔軟に乗り越えていく人生が開かれる。親鸞聖人の生き方に学びたいですね。

☆ 写真アラカルト ☆



秋季永代経&釋先生講演会(オンライン)



「善正寺ホームページ、トップ画面。更新情報、過去20回分(写真・文)見られます。
「住職と坊守のつれづれ日記」(ブログ)をQRコード対応携帯より簡単アクセスできます。

☆行事ご案内☆

報恩講 講師：梶原佑倅先生(北海道)

在家から僧侶の道に、元函館商工会議所会頭

11月2日午後1時半 お非時は持ち帰り弁当

申込締切10月25日、複数申込可、電話申込可

3日午前10時 昼食弁当用意：世話方様、行事様

遠方参詣者様等、遠慮なくお召し上がり下さい

秋勤進：11月23日午前8時 行事・世話方・住職が手分けして巡回。ご協力よろしくお願ひします

お内仏報恩講：12月2日(土)午前10時半

庫裏仏間、お弁当用意、秋勤進の時、希望伺います

夕方5時の鐘撞、年中無休、誰でも撞けます。ご褒美有
善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、寺報一面下
QRコードからでも閲覧可。『住職と坊守のつれづれ日記』
毎日更新大好評、開設15年で41万9千、悩み相談可
一線会テレホン法話 ☎ 059・354・1454

三重組5か寺が週替わりで担当する3分で聞ける法話、
新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談を
法事場所でお困りの方：寺にご相談下さい。本堂使用可
第20期三重組オンライン連研 11月27日夜善正寺本堂

ほうもり 坊守スケッチ

デジタル化と私



世はデジタル化時代。子供でさえスマホを持ち歩き簡単に使いこなします。右往左往しているのは一部の高齢者。私もスマホやパソコンは使いますが、不明なことがあると、ネット・トータルサービスに電話して相談します。殆どの難問を親切に遠隔操作で解決してくれます。

先月号の寺報一面下段に二個のQRコードが掲載されたのをお気づきですか？スマホを買ったばかりという70代女性が早速QRコードを読み込んで、以前から訪問したかった『住職と坊守のつれづれ日記』というブログを見て下さいました。

私達が15年間毎日発信しているブログです。寺報は月に一度で30年になりますが、ブログは15年間毎日。おかげさまで投稿記事数が1万記事を突破しました。毎日のことなので、内容も些細な事ですが、注意深く日常生活を観察し、じっくり味わう習慣ができました。「日々精一杯生きる」ことを綴る自分史を書いているような心境です。

その上、訪問者と毎日ブログで繋がっているという喜びが感じられて、大きな励みになります。

ところで先日、遠方の初めてのお宅へ車で出かける用事が出来たので、

カーナビに入力して誘導されるままに慎重に運転しました。用心深い私はパソコンで地図を確認してから、経路を頭にインプットします。若者から見れば、何と愚かな事と笑われるかもしれませんが、ナビは目的地が近づく、「まもなく到着です」と教えてくれますが、どの建物が本命なのか不明です。仕方なく駐車場探しにうろつき、随分行き過ぎて、最後は人に尋ねるといってお粗末さでした。デジタルは便利ですが、使いこなすまでには時間と技術が必要です。それに対して阿弥陀様のお救いは最後まで安心してお任せする世界なので、私達の真実信心一つで救われていくのだと気付かせて頂きました。

お知らせ

※11月2日の報恩講には、「お非時」持ち帰り松花堂弁当を用意します。班長さんが希望を伺います。複数の申し込み可。他所から参詣されます方も可。準備の都合上10月25日までに必要人数をお知らせ下さい。また11月3日午前の法要後は、役員様方や、他所からご参詣の皆様には昼食弁当を用意します。遠慮なくお申し出下さいませ。

カンパありがとうございます

澤田美智江様、T T様、T S様他感謝

若坊守の子育て日記No.106

去る9月29日は『お月見』・十五夜でした。当地では子供達が楽しみにしている「お月見どろぼうの日」です。お月見のお供え物を、この日だけは無礼講で頂戴してよいという『日本版ハローウィン』の行事の日です。

我が家では縁側に大きな盆を置き、お菓子やジュースをお供えします。我が家は通りからよく見えるので、毎年多めに用意しておきます。

「お月見ドロボーさん、一人一個ずつにしてね」と、どの家にもパソコンから引用したメッセージやイラストが貼ってあります。またさすがに活けるある風流なお宅もあります。

私も参考にして、我が家は何を書いた貼ろうかなと思案しました。

月が出る頃には、子供達は外出しないので、お月見ドロボーは、例年暗くなる前に始まって終わります。

「今年は満月と十五夜が重なるラッキーな年！七年後まで重ならないので、お菓子にだけ目を向けなくてお月様も見上げてね」と、私は願いを書いて掲示しました。もちろん手書きです。殆どの子供はスーッと通り過ぎて行きますが、きちんと読んでくれる子もいます。読み上げる可愛い声が聞こえると、中で一人微笑むのが、私の秘かな楽しみです。暗くなつてから美しい満月を、我が家の二人の子供と見上げて、静かな喜びに包まれました。

俳壇・法句

学友も今は寺友も秋彼岸 釋妙水

朝顔や隣のとたり蔓伸ばす 秋暑く蕎麦屋の前は列ながし

零余子飯亡父の古里今は無き 釋榮邦
香りたつ紫蘇の笑しごく厨かな
伐られゆく開発の森秋侘びし

夏水仙花瓶いっぱい床の間に 釋住安
百合添えて朋との別れ合掌す
水引草風とたわむれ咲いてをり

芋煮会大鍋ならぶ広瀬川 釋普教
みちのくの萩のまつりやバス増便

雨戸繰る足占びくつと秋来たる
さわさわと手招く尾花銀の湖 T S

何色が好きだったのか亡父の菊
田舎道朱い灯点す烏瓜

稲穂垂れ還相仏と生れたもう 釋瑞華
法句の節南無一声に御姿拝す

秋高し色鉛筆の箱のゴム 釋秀龍
秋の暮タンスの奥のハーマモニカ

秋の風早退の子のランドセル
今風の墓も増えたり秋彼岸 釋清風

山寺の葬儀とんぼも加わりぬ
長寿とは耐え忍ぶこと敬老日



☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」359号をお届けします。◇残暑厳しき秋が去り、報恩講の秋到来。◇今年には広報拡大で他寺院からのお参りを増える企画あり。親鸞聖人の門徒であつてよかつたと言われる方々の増加を期待したい。合掌。

「夏が来たら冬がええと言ひ、冬になりや夏がええと言ふ……
親のおかり、先生のおかり、世間様のおかり、おかりの塊が自
分やないか(略)」「上所重助詩)。更にもう一遍「お前はお前
で丁度よい、顔も体も名前も姓もお前、それはお前、丁
度も貧も親も子も鬼子の嫁もその孫も、それはお前に丁
度よい(略)」「藤場美津路詩)も、私の心に響きます。
「おかげさま」と「丁度よい」という言葉は難解な仏教用
語よりも分かり易く、仏様のお心を私達に直に伝えてく
れます。ゴロナ以降、あちこちで不平・不満・愚痴のはけ口を
求める暗く悲しい事件が頻発しています。あくまでも自分は
被害者で悪いのは相手だという観点ではどこまでも平行線
で悩みは深まる一方です。「仏法を聞く」と言うのは、我が心を
仏様の教えに照らし合わせる心の鏡を持ち自らの愚か
さに気付かせて頂くことです。もし「おかげさまや」「丁度よ
い」という言葉があなたの心に届いたならば、「南無阿弥陀仏」
とお念仏が口からこぼれます。そんな私に育てて頂く為
に今年も報恩講をお迎えします。この度は北海道より
梶原佑伴 先生を初めてお招きします。先生は在家出身で
元函館商工会議所会頭。企業人として大成された先
生が、何故仏道に救いを求め僧侶の道を歩まれるように
なったのか？、そのいきさつを詳しくお聞きしたいと思ひ
ます。こんな機会はありません。坊守としてみたい
に学ばせて頂きたいと思ひます。どうかお誘ひ合せてお参
り下さいませ。合掌

令和五年十一月

善正寺坊守 拝